

第9回 逗子海水浴場の運営に関する検討会 概要

日時：令和2年10月8日（木）

14時30分～16時40分

場所：逗子市役所5階 第1・2会議室

出席者

[メンバー] 田中 美乃里、歌代 光雄、菊井 健一、熊岡 寛展、熊倉 武夫、
若菜 克己、福井 八洲雄、牛嶋 美代子、菊池 俊一、安重 宣子、
飯野 幸、和田 修芳、菊池 千春、岡田 和夫、岩佐 正朗、
松田 政治、深澤 忠房

[オブザーバー] 逗子警察署地域課、横須賀三浦地域県政総合センター企画調整課、
鎌倉保健福祉事務所環境衛生課、横須賀土木事務所許認可指導課、

[事務局] 逗子市市民協働部経済観光課

課長 黒羽 秀昌、係長 大野 宏子、主任 楠元 仁、主事 宮上 敦久

欠席者

[メンバー] 近藤 和善、徳本 恒徳

[オブザーバー] 公益財団法人かながわ海岸美化財団

会議公開の可否

可

傍聴者

1名

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 今夏の逗子海岸の状況報告
 - (2) その他
3. その他

配布資料

資料1. 令和2年度新型コロナウイルス感染症流行下における夏期の逗子海岸状況報告書

資料2. 逗子海水浴場の運営に関する検討会スケジュール（案）

1 開会

- ・事務局より、検討会は傍聴できることと、マスコミの頭撮りについて説明を行った。
- ・市長挨拶
 - 異例の夏であったが、皆さんの協力のおかげで無事に乗り切ることができた。感謝申し上げます。
 - 緊急事態宣言が発令される等により、開設する場合としない場合を想定して準備を進めていたが、結果として開設しなかった。開設をしない場合であっても人は来るため、対策を講じる必要があった。まずは新たな条例を制定し、逗子海岸営業協同組合及び逗子マリン連盟との協定の締結によってパトロールやごみ対策に取り組んでいただいた。海上にはマリンスポーツ等進入制限区域を設置して、ライフセーバーに監視してもらった。警察、海上保安庁、神奈川県との協力もあって、県内一の結果となったと思う。
 - 多くの皆さんのおかげで大きなトラブルもなかったが、途中で外国人が好き勝手やっていると報道されたのはダメだった。報道はその部分だけを切り取っており、逗子は荒れ放題の海と思われたと思うが、実際は、外国人は多かったがみなさんのおかげで無事に乗り切れた。
 - この経験を活かして、来年はよほどの事態がない限りは、開設するよう準備していく。今年の記録と記憶を来年につなげて来年は良い夏にしたい。
- ・事務局より、資料確認と本日の会議の趣旨の説明を行った。

2 議題

(1) 今夏の逗子海岸の状況報告（資料1）

- ・事務局から今夏の逗子海岸の状況報告を資料1「令和2年度新型コロナウイルス感染症流行下における夏期の逗子海岸状況報告書」のとおり説明。
- ・事務局の説明に対して、次のとおり質疑や意見があった。
 - 13ページと16ページの合同パトロールは同じものか。
⇒それぞれ別のパトロールであり、13ページの合同安全パトロールは海上と砂浜に分かれて14時から行ったもの。16ページの合同パトロールは18時から砂浜のパトロールを行い、こちらには米軍も参加した。8月9日の曜日は、土曜日ではなく日曜日の間違い。
 - ごみ対策に感謝申し上げます。ごみゼロナビゲーションの呼びかけでシンボルロード等の散乱ごみ防止には効果があったかと思うが、バス通りや川の中に捨てられたごみは、例年と同じようにまだまだあるため、「効果があった」で終わらないでほしい。
⇒検討会が作成する報告書に反映する。
 - 16ページのごみ収集量と来訪者数を見ると、来訪者の減少に比べてごみ収集量の減りが少ない。来訪者の持ち込むごみが増えたのではないか。
⇒例年は海の家で回収して処分していたごみが屑かごに捨てられたものと思われる。
 - 今年は漂流ゴミが非常に多かった。プラごみも特に西浜に多い。それについても議論してほしい。
 - 海岸周辺の違法駐車は増えたのか。

⇒特段問題となることはなかった。

- ・報告事項に対する質疑の後、各メンバーから、今夏の海岸や来年度の海水浴場の開設について所感が述べられた。
 - 夏を迎えるまではさまざまな懸念があったが、皆さんの努力のおかげで懸念されたようなことは起きなかった。海の家がないと浜が広くて人が来ても大丈夫なんだと思った。警備員は飲酒やテントを使用する来訪者について愚痴をこぼしていたため、現場の声を聞き取ってほしい。
 - 市や海岸組合を中心に頑張っていたいただき感謝申し上げます。良い浜であったが、逆説的には海の家がなくて良かったなというのが感想。不如帰の碑の辺りでいつも海水を汲み上げている方から聞いた話では、今年の海水はほんとにきれいだとのことであったため、海水浴場がないほうが海にとっては良いのではないかと。個人的には海の家がある海水浴場のほうが良い。由比ガ浜は屈強な警備員がおり、マナーの悪い利用者が逗子に流れてきているのではないかと。
 - 海は5月からきれいだった。今年は良くなかったと思う。夕方にウォーキングに行ったが十分混んでおり、市外からの柄の悪い人たちがクラスターになりそうな人数でいたイメージで、それからは海岸に行かなくなった。県外への広報が足りていなかったのではないかと。市外からの人がお金を落とすことによる経済効果があるのか疑問であり、そういうバックデータがあるならそれをベースに考えてほしい。どういう人に来てほしいかというビジョンが全員バラバラだと思うため、行政と議会と市民の意見を組み入れて、明文化は難しいにしても同じビジョンは持っておく必要があるのではないかと。遊泳自粛なのに区域分けのブイがあるのは違和感があった。
 - 警備員が朝から晩まで頑張っていて防犯協会の出る幕がなかった。神奈川県警の巡回が特に良く、民間人がベストを着てパトロールをしても効果が薄いため、制服姿の警察の巡回は抑止力になったと思う。結果として治安が守られたと思う。逗子海岸は地の利が非常に良く、電車で一本で来られて帰りも始発から座って帰れるため、いろいろな人を引き寄せるのだと思う。海岸組合は海を営業がない中で非常に良くやってくれたと思うので、来年は大々的に営業してもらいたい。海の家は商店街のように統一感をもってやってほしい。
 - 無事故で終わったのは皆さんのおかげ。感謝申し上げます。一番打撃を受けた海岸組合、マリン連盟には頭が下がる思い。海水浴場の運営に関する検討会のため、来年は開設できるように考えていきたい。神奈川県には来年以降海水浴場を続けられる指針を考えてもらいたい。
 - 今夏を無事に乗り切れてよかった。今年は協力体制を築けたと思う。開設するしないにかかわらず、協力体制を構築できたことが一番大きいと思っており、皆さんの思いを共有できたことは今後の運営でもプラスになると思う。来年度以降は新しい形の海水浴場になっていくと思う。みなさんの協力をいただきながら、来年開設したいと思う。
 - 毎日パトロールとビーチクリーンを行ったが、外国人の利用者が非常に多かった。他の海岸の関係者に聞いても逗子は特に多いとのことだった。なかなかマナー等を守ってもらえない利用者もおり、由比ガ浜で警備していた屈強な警備員ともコミュニケーションをとっている。また、海岸の環境についても考えており、ブルーフラッグを取得して、

市民の方々と一緒に良い海岸にしたいと思っている。来年は海水浴場を開設したいが、コロナの影響があるので、そこも踏まえて考えていきたい。

- 対策が功を奏して平穏で静かな海岸だった。夜間花火も少なく、泥酔者もいなかった。ごみについては自治会でも取り組み、資源循環課に回収を早朝にやってもらったり、ごみステーションにポイ捨てしないでという看板を立てたりした。7・8月の早朝に町内のごみパトロールを行った結果、ポイ捨てなしは2日あり、ごみが無かったステーションは62%だった。また、8月31日に逗子マリーナ横のステーションにバーベキューセットが3袋、逗子開成学園横のステーションにアルミ缶やペットボトルが揃えて放置されていたケースがあった。ごみはマスクのごみが非常に多かった。これらは海岸組合が回収した後に捨てられたごみだと思う。例年以上にごみがない良い夏だった。清掃活動を行った団体とボランティアのおかげでよい雰囲気のできたので、来年以降も続いてほしい。カラスについては、完璧にごみを対策していただいたおかげでいなくなった。音響や水上オートバイの騒音は問題なかった。今年は海岸組合と海保の効果が大きかったと思う。ライフセーバーの活動に感心した。警備員が飲酒への注意を積極的に行っていた。マリンスポーツが多かったため、制限区域の設置は非常に良かったという意見が多かった。テレビの報道は、飲酒OKのイメージを与えたと思うし、その結果誘引してしまった。花火がうるさくてしょうがないと意見が出たため、調査したが、22時以降は花火の音は聞こえなかった。シークレット花火は良かったが、もっとみんなで楽しみたかった。
- みなさんに支えられて乗り切れたと思うが、地域はいろんな人に支えられていると知らない人がいると思う。
- 苦情はあがっておらず、共通の認識で話げできた。外国人の来訪者については、過去のライブハウス問題を彷彿とさせる状況だと思う。広報もしっかりと行っており、現場での説明も限界。このままマナーを守らない来訪者を放置するとエスカレートする一方であるため、警察と協力して対応をすべき。
- 海岸組合、マリン連盟、ライフセーバーなど多くの方に支えられて、乗り切れたと思うが、外国人と小さいテントが多く、酒を持ち込んでいたと思う。海の家がなくて寂しかったし、抑止力になっていたと思うので、来年は開設してもらいたい。子どもたちの危険などの意見はなかった。子ども向けのイベントも中止になってしまい、子どもたちはかわいそうだから、コロナが早く収束して楽しいことできたらと思うため、来年は開設してほしい。
- 心配の声が多かったが、そのたびに海岸組合・マリン連盟・市がやってくれていると伝えていた。テント等のごみか分からないものが放置されていた。また、海岸にテントを張って泊っている人がいたようだった。
- マリンスポーツができるスペースを広く取らせていただいて、仕事はしやすかったが、一般の方もすごく多くて交錯による事故が心配だった。西は自分たちで見ているが、東は大丈夫かハラハラしていたが、台風もなく大丈夫だった。海上は何かあればすぐに海岸組合やライフセーバーが行ってくれて安全が保たれた。おかげで事故もなく、苦情も少なかった。今後はマリンスポーツのルールを改めて整理して迷惑をかけないようにしたいと考えており、冬の間整理したい。
- 海の家がなくて午前中は静かだと思った。ごみの収集量が来訪者ほど減っていないのは、

市民が家庭内のごみを屑かごに捨てているせいだと思うし、実際にそういう現場を目撃した。今年は SUP で釣りする人が増えたが、子どもたちがいる目の前で魚をさばいて血まみれになっているのはどうかと思った。夏でも人が少ないからか海水きれいだったが、きれいだと底が見えて、海底にごみがいっぱい落ちていた。こうしたことも知らしてもらい対応していったらよい。

- 夏前の検討会の時の印象をはるかに超えた良い対応策が講じられ、それによって良い結果になったと思っている。来年もコロナの影響は続くと思うので、with コロナでどうやっていくのが我々が考えていけないテーマだと思う。個々の現場での対応策は限界だと思うため、近隣市町が共同でテレビでルールの周知等をやったらどうか。酒を飲む映像がテレビで流れると飲んでもいいというイメージが定着してしまう。警察の力はほんとに強く、制服の人が浜を歩いているだけで日本人はぴりっとする。外国人はそうでもないかもしれないが、そうなるよう対策する必要がある。海岸組合のパトロール車両は良かったが、ガソリン代もかかると思うため、ボランティアでよいのではなく、市から負担できないか。今年やって無駄だったことは一つもない。外国では法律で酒を飲めなくしているが、日本ではそうならないようにしてほしい。
- ライフセーバーとしては、今年はいろんな方にお世話になった。特に海岸組合の方には、小屋の設置、海上及び砂浜パトロール、ビーチクリーン等感謝申し上げる。夏を迎えるまでは、海の家がないとどれだけ海岸にごみが散乱するか心配だったが、実際は取り組みのおかげできれいだった。しかし、波打ち際は漂着ごみが多かった。海上保安庁は、モーターボートタイプの船を葉山港に置いて、二艇で土日は朝から晩までパトロールしてくれたおかげで、危ない輩は入口でUターンして帰っていくし、海岸組合が水上オートバイで沖合にいたおかげでみんな帰っていった。鎌倉でモーターボートの暴走も2、3あったが、事故にはならなかった。動力船進入禁止ブイ、マリンスポーツ等進入制限区域のおかげで安全が守られた。こういう対策がしっかりしているからこそ、事故がなかったのだと思う。このスタイルは逗子だけだと思う。来年も頑張っていきたいと思う。
- 縁の下を開けて見ることができた夏だったと思う。おおむね開設できたらいいという意見だと思う。個人的には軽率に決められないとは思いますが、その時になって考えるのではなく、あらゆることを想定して考えておかないといけないと思うし、対策しながらの営業も可能だと思う。

3 その他

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明を行った。(資料2)
 - 今回いただいた意見をまとめ、11月に課題整理、来年度開設方向性決定、12月に報告書作成して、1月に提出をお願いしたいと思っている。
- ・海岸組合より
 - 次回の検討会に開設時期と営業時間についてご提案をさせていただきたい。開設時期については、一週間後ろにずらさせていただきたいと思っている。検討をお願いしたい。